令和5年度
自己評価 報告書

評価期間 自:令和5年4月 1日
至:令和6年3月31日

令和6年 6月12日

専門学校日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要Ver 4.0』に準拠し実施した。

自己評価委員会

- 委員長 野口 朝夫（校長）
- 副委員長 菅沼比呂志（副校長）
- 委員 上原 則博（主任）
- 委員 鈴木真紀夫（主任）
- 委員 池谷 光江（主任）

事務局

- 長坂 大輔（事務局長）
- 銭谷 裕子（教務課長）
- 山市 直佑（総務課）

目次

1. 学校の教育目標	P.3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P.3
3. 点検項目の評価結果	P.3～9
(1)教育理念	P.3
(2)学校運営	P.4
(3)教育活動	P.4・5
(4)教育成果	P.5
(5)学生支援	P.6
(6)施設整備	P.6
(7)学生募集	P.7
(8)財務	P.7
(9)法令順守	P.8
(10)社会貢献	P.8
(11)国際交流	P.9
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P.10
(1)教育評価	P.10
(2)財務評価	P.10
(3)一般的評価	P.10

1. 学校の教育目的

専門学校日本デザイナー学院は、高度に進歩する産業社会において生活と文化に携わる有能なクリエイターを養成することを目的とし、その職能上必要とされる技能を履修させ教養を積み、同時に人間形成に努め、社会人としての自覚と責任をもつ人材の育成を使命とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 社会貢献の意識を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とした学生活動に対する支援を行う。
- 2) クリエイティブ業界と学生のニーズを反映し、バランスのとれたカリキュラム編成を行う。

3. 自己点検・評価項目の結果

(1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	④	3	2	1
1-2)	学校の特色は示されているか	④	3	2	1
1-3)	学校の将来構想は示されているか	④	3	2	1
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	4	③	2	1
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

①課題

超実践教育という本校の教育理念に基づいたカリキュラム運営や活動の情報を積極的に学内外へ発信・周知をしているが、双方向のやり取りの機会が不足していると考えられる。

②今後の改善方策

学内外の発信に用いているWEBサイトやSNSだけでなく、オウンドメディアも効果的に連携させ、引き続き情報の浸透を図るとともに、双方向のやり取りを生じさせたり、新学務システムのWebポータルを活用したりする。

③特記事項

教育目的、使命、教育目標は、入学時のガイダンス等で学生や保護者に周知しており、また業界の動向については最新の情報を現場から収集している。
オウンドメディアも多角的に情報を発信しており、業界でも評価を得ている。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
2-1)	運営方針は定められているか	④	3	2	1
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
2-3)	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	4	③	2	1
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
2-5)	意思決定システムは確立されているか	④	3	2	1
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

令和5年度に学生募集から教務運営、卒業まで一貫して管理できるシステムを導入した。
混乱を想定して準備を進めたが、初動では関係各所で負担が生じてしまった。

②今後の改善方策

システムの整備を進め、運営をスムーズに行えるようになった。一方で、今後はシステムの切り
替わりやアップデートが行われるタイミングに合わせて、想定を超える混乱が生じないように入念
な準備や関係各所への周知徹底を行うようにする。

③特記事項

[

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
3-1)	教育理念等に沿った教育課程も編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	④	3	2	1
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法 の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	④	3	2	1
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	④	3	2	1
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
3-9)	授業評価は実施されているか	④	3	2	1
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	④	3	2	1
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4	③	2	1
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む) を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の 指導力育成や向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

①課題

最新技術やトレンドの急速な変化に業界の動向も大きく動いているため、カリキュラムへの反映をしてもすぐに技術のトレンドの変化が訪れてしまうこと。

②今後の改善方策

最新技術は取り入れながらも、根本的な考え方や原理原則を大切にすることで、体系をもったカリキュラム運営を引き続き行っていく。また、最新技術を「どのように扱うべきか」を考える機会や、ディレクションを多く経験できる機会を引き続き多く設け、アナログからデジタルへの時代の激変にも対処できた人財教育を改めて徹底する。

③特記事項

令和5年度にAIの利活用に関する教職員研修を実施した。

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4	③	2	1
4-2)	資格取得を向上させるための施策は図られているか	4	③	2	1
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	4	③	2	1
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
4-5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

①課題

学生たちが卒業後のキャリアについて具体的に考える機会の提供が不足していて、就職希望者数が減少していること。

②今後の改善方策

キャリアセンターによる職業理解や就職意識を高めるイベントを増やしたり、講師と連携してゼミなどで将来に関するディスカッションを行う機会を増やしたりすることで、学生が自分の将来について具体的かつ主体的に考える機会を増やす。

③特記事項

保護者の希望も取り入れるため、希望記入用紙の配布などを行う。

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	4	3	2	1
5-2)	学生相談などの支援体制はどうか	4	3	2	1
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	4	3	2	1
5-4)	学生の健康管理はどうか	4	3	2	1
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-6)	学生寮等の支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-7)	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

[健康面、経済状況も含め、学生個人個人に対しての支援は引き続き必要となってくる。]

②今後の改善方策

[保護者への情報共有を定期的に行い、SNSなどを活用し学生の情報を発信する。また、電話連絡や面談などでも積極的にコミュニケーションをとるようにしている。]

③特記事項

[1:出席や成績等、学生生活の状況を保護者に定期的に報告している。
2:高等学校にて部活動支援の実施等を行っている。
3:「学業継続支援金制度」を創設し、家計急変学生の支援を行っている。(令和5年度1名)]

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	4	3	2	1
6-2)	学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-3)	防災体制は整っているか	4	3	2	1

①課題

[適切に行われていると判断している。]

②今後の改善方策

[校舎改築後年数が経過してきているので、修繕や環境美化も含めて施設や設備の維持管理に努める。また、最新の現場の機材に合わせた環境のアップデートも並行して進めていく。]

③特記事項

[館内避難経路の確認や、備蓄品の更新も随時行っている。]

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
7-1)	学生募集活動は適正か	4	3	2	1
7-2)	学生募集に教育成果は反映されているか	4	3	2	1
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4	3	2	1
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

[適切に行われていると判断している。
自校ウェブサイトやSNSでの教育成果のアピールをより充実させる。]

②今後の改善方策

[社会情勢に合わせた募集活動を臨機応変に行える体制を引き続き維持していく。]

③特記事項

[]

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
8-1)	中長期的に財務基盤はどうか	4	3	2	1
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4	3	2	1
8-3)	会計監査は適正に行われているか	4	3	2	1
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

[適正に行われていると判断している。]

②今後の改善方策

[現状どおり継続していく。]

③特記事項

[定期的な内部監査も実施しており、財務情報もウェブサイト上に公開済み。]

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4	3	2	1
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4	3	2	1

①課題

[適正に行われていると判断している。]

②今後の改善方策

[現状どおり継続していく。]

③特記事項

[自己評価、学校評価をウェブサイトで公表している。]

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4	3	2	1
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	4	3	2	1
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

①課題

[地方自治体や地元企業との連携(産官学連携)は積極的に行っているが、コロナ禍以降学生がボランティア活動へ積極的に取り組む傾向が低下している。]

②今後の改善方策

[サークルの活動で社会貢献活動を積極的に行える環境を創出したり、ボランティア活動などの情報を学生向けに発信し、かつ学生がより意欲的に活動を行えるような機会創出を行う。]

③特記事項

[近隣の中学校(鉢山中学校)からの職業体験実習の受け入れや、地域の自治会との連携活動、渋谷区や渋谷警察署といった行政との行事運営を行ってきた。
令和5年度は姉妹校の日本写真芸術専門学校が開いた公開講座で多くの聴講者が参加し、本校も当公開講座では連携して運営を行った。]

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	③	2	1
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

①課題

[適正に行われていると判断している。]

②今後の改善方策

[留学生の出席率向上や学習への意欲向上にむけての指導を強化していく。]

③特記事項

[令和5年度はマレーシアで開校した姉妹校との交流や、海外の教育機関の訪問および本校でのワークショップ受講の例が複数回あった。]

4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

教育評価は概ね適切という判断であるが、いくつかの点において課題や改善の余地がある。まず、学校からの情報発信については積極的に行っているが、より緊密な連携をとることで、学内外への情報の浸透をより一層はかれると考えられる。

次に教育活動に関しては、昨今の急速な技術革新への対応と並行して従来の人財育成を行うことを重視したい。が課題となっている。先述の通り、根本的な考え方や原理原則を改めて学生たちに伝えていくことで、超実践教育たる教育の提供につながると考えている。そのためにも講師との連携を引き続き続けていく。

学生対応については、未来志向な職業観の醸成を図れる機会をより一層増やしていく。個別相談の更なる充実、保護者や卒業生との連携等は引き続き力を入れていく。

(2) 財務評価

令和5年度の入学者数・在籍数は前年度よりもわずかながらに増加傾向にあり、また適正な予算・収支計画に基づき、安定的な学校運営が行われていると判断している。

(3) 一般的評価

専門学校日本デザイナー学院は、クリエイティブ教育の専門学校として創立59年目を迎え、創立以来多くの卒業生達をグラフィックデザイン・マンガ・イラストレーションなどの産業界と生活文化に携わる有能なクリエイターとして輩出している。

社会人としての自覚と責任を持たせる指導を行いながら、学生とクリエイティブ業界のニーズに対応するために毎年カリキュラムの改良にも努めている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で止まっていた産官学連携も再開し、活発な制作活動が行えている。より実践的な授業を受けられることで学生の学習意欲がより高まり、さらには入学希望者・保護者からも好評を得ている。